

今年度の活動を振り返って

— 津軽白神森林生態系保全センター —

当センターは、青森県鯉ヶ沢町に設置されています。白神山地世界自然遺産地域（青森県側）やその周辺地域、岩木山、屏風山などをフィールドに森林生態系の保全や適切な利用の推進を図るため、巡視活動や自然再生活動、林業体験や森林教室などを通じた森林環境教育に取り組んでいます。

○「山の日」制定記念イベントの開催

昨年、国民の祝日として施行された8月11日（木）に「山の日」制定記念イベントを開催しました。このイベントは西目屋村、津軽森林管理署、白神ビジターセンター及び当センターの共催により、「山の日」制定記念白神のぶな林を学ぼう」と題し一般公募した親子を含む25名が参加。白神山地を一望できる津軽峠周辺においてぶなのこの植樹体験や「ぶな巨木ふれあいの径」の散策を行いました。

当日は天候にも恵まれ、主催者を代表し西目屋村関村長の歓迎の挨拶に続き、記念植樹体験を行いました。一生懸命にクワで植穴を掘り、ぶななど広葉樹を丁寧に植えた子供たちは額に大粒の汗をかいています。さわやかな白神のぶな林の中で、夏休み中の貴重なふれあい体験になったものと思います。

今年の8月11日「山の日」は、皆さんも白神山地をはじめ森林の恵みを感じに出かけてみませんか。



感じよう、山の恵み、森の恵み

○自然再生活動

自然再生活動を7月23日（土）と9月17日（土）の2回、通称白神ライン（県道28号岩崎西目屋弘前線）に隣接する西目屋村暗門の鬼川辺国固有林内で実施しました。この活動は白神山地世界遺産地域周辺のスギ人工林を、元々の植生であるぶななどの広葉樹林に戻していくため、広葉樹苗木の採取や植付けなどを実施するもので、活動終了後は、周辺のぶなの散策を行っています。森林内での作業を行ったことがない方も気軽に出来る内容となっており、今年度の参加者は、採取した大きめの稚樹をスコップで自ら穴を掘ってそのまま植え込み、小さめの稚樹は自ら作成したカミネットコンに苗木と土を入れ林内の安定した場所に置くといった作業を実施・体験しました。100年後を見据えたぶな林再生の作業に、参加者からは充実感を感じるコメントを多くいただいたところ。また、周辺のぶな林散策は、津軽峠周辺に点在するぶな巨木を巡る遊歩道「ぶな巨木ふれあいの径」、暗門溪谷に程近い「世界遺産の径」ぶな林散策道コースなどにおいて実施し、参加者は職員の話聞きながら、大きなぶなの迫力を感じるとともに、白神山地の自然環境を体感していました。

こうした活動は今後も公募等により、多くの人の参加を得ながら地道に行っていくたいと考えております。皆さんのご参加をお待ちしています。



自然再生活動の様子

○白神山地世界自然遺産地域の巡視活動

当センターが中心となって白神山地世界遺産地域連絡会議の構成機関やボランティア巡視員、地元警察署、消防署、漁協関係者とともに盗掘などの違法行為の防止や入山者のマナー向上等を目的に、7月30日（土）に合同パトロールを実施しました。巡視活動を①大川、②クマガラの森、③追良瀬川で、マナー啓発のチラシ配布を①世界遺産の径ぶな林散策道、②白神岳登山口で行いました。大川コースには、ボランティア巡視員のほか、岩木川漁協などからも参加があり、所々腰まで水につかりながら、足下を確認しながらゆっくりしたペースで慎重に巡視活動を行いました。世界遺産の径ぶな林散策道入口で実施したマナーパンフレットの配布には報道機関も取材に訪れ、マナー向上の取り組みについて広くPRすることができました。今後も、巡視活動や入山マナー向上の呼びかけを行い、違法行為等の防止に努めます。



大川での巡視活動

○中・大型哺乳類のモニタリング調査

白神山地周辺でも二ホンジカの影響が増えています。5月17日（火）に鯉ヶ沢町矢倉山国固有林で報道機関へ赤外線センサーカメラの設置作業を公開したのを皮切りに、関係機関と調整のうえ、カメラ100台余り（当センター担当分30台）を設置し、11月末頃まで二ホンジカを含めた中・大型哺乳類のモニタリング調査を行いました。

二ホンジカは、当センターで設置したカメラでは4箇所まで撮影されました。来年度についてもセ

ンサーカメラによるモニタリングと生息情報の収集に努めるとともに関係機関と連携のうえ、二ホンジカ対策を推進することとしています。白神山地周辺地域で二ホンジカを目撃された場合は、関係機関までお知らせいただきますようお願いいたします。

○試行的な二ホンジカ捕獲

一昨年の10月には世界遺産地域（緩衝地域）において、センサーカメラによって雄の二ホンジカ1頭が撮影されたものの、世界遺産地域及びその周辺における二ホンジカの生息密度は低いものと考えられます。しかし、世界遺産地域への二ホンジカの侵入を基本的に排除するとの考え方に立ち、また、将来を見据えて他地域で捕獲実績のある小型囲いかなを10月25日から12月末まで深浦町深浦山国固有林に1台を試行的に設置し、捕獲を試みました。設置期間中に二ホンジカや他の動物が捕獲されることはありませんでした。



設置した小型囲いかな



撮影された二ホンジカ

○林業体験・森林教室

5月12日(木) 鱈ヶ沢こども園にて、当センターと津軽森林管理署の共催で「花の植栽体験学習」を行いました。子ども達に植物の大切さや自然に興味を持つきっかけを作る事ができないかと当センターで活動を始め、今年で7年目の開催となりました。園児たちはスギの間伐材から作られたプランターに上手に花を植え付け、大切そうに水をあげていました。園児たちは、秋頃まで自分が植えた花のお世話をしました。花の生長や香り、木の暖かさを感じる事に繋がればと願っています。

5月28日(土)には今年度第一回目の森林教室を十二湖自然休養林にて、深浦町と共催で開催しました。当日は天候にも恵まれ、親子を含む32名の参加者が4班に分かれ、ガイドが動植物の生態などを詳しく解り易く説明しながら森林散策を行いましたので、参加者は白神山地の生態系をより理解できたものと思えます。



9月8日(木)・9日(金)の2日間、当センターと津軽森林管理署は、鱈ヶ沢町内の小学生を対象に林業体験学習(森林教室)を実施しました。この森林教室は林業体験を通じ、地元小学生が地域の産業である林業や白神山地世界遺産について理解を深めることを目的として、西海小学校5年生ならびに舞戸小学校4年生児童に対して毎年実施しています。両日も小雨模様でしたが、午前中は同町矢倉山国有林において育樹体験と矢倉山天然スギの見学を行いました。児童たちは19年生のスギ林で鋸を使った除伐、つる切り、枝打ちなどの育樹作業を体験、天然スギの巨木にも挑戦してみました。児童の計測結果は幹周り約6.5m、胸高直径約2m、樹高約32mでした。午後は白神の森遊山道の散策を行いました。この森は白神山地世界遺産地域同様の森林景観を保っています。児童たちは職員の話聞きながら、木々の実を拾っ

たり昆虫や小動物に触れたり白神山地の森林生態系を感じていました。このような体験をした子供たちがやがて大人となり、森林の魅力を伝えてくれることを願います。

10月15日(土)澄んだ空が高高く続く秋晴れとなったこの日、多数の応募者の中から抽選で選ばれた19名に参加いただき、第2回森林教室を開催しました。

「晩秋のブナ林と紅葉の渓谷を望む」と題して、西目屋村のぶな巨木ふれあいの径・津軽峠の散策をし、その後釣瓶落峠の紅葉を楽しむという行程です。様々な種類のキノコや赤く染まった才力メノキを目にし、着実に訪れている「山の秋」を体感していただきました。ある方はカメラを手に白神の風景を切り取り、またある方はキノコについて理解を深め、思い思いに山との関わりを築いている様子でした。

○写真展「白神の自然」開催中!



写真展「白神の自然」を開催中です

只今、当センターと白神山地ビジターセンターの共催により、白神山地の生きもの、植物、風景などを紹介する写真展「白神の自然」を左記により開催しています。お近くにお越しの際はどうぞお立ち寄りください。

日時 12月10日(土)～平成29年2月26日(日) 午前9時から午後7時

※毎月第4月曜日は休所日

場所 青森県総合社会教育センター 1～2階 アートギャラリー「shaisei」

TEL 017-739-1125

その他 入場無料

今年度の主な活動を簡潔に紹介しました。詳しい活動内容などは当センターホームページ、広報誌「白神の絆」をご覧ください。



— 藤里森林生態系保全センター —

当センターでは、白神山地世界遺産地域(秋田県側)4,344ha及び周辺地域の貴重な森林生態系の適切な保全と利用を図る活動を実施しています。

○白神山地世界遺産地域の巡視活動

今年度の巡視活動は、雪解け後の5月中旬から降雪前までの11月中旬にかけて、二ツ森を皮切りに水沢、藤里駒ヶ岳、小岳等の登山道周辺を中心に盗掘等のマナー違反が無いかなど巡視を行いました。



合同パトロール(二ツ森コース)

7月30日には白神山地世界遺産地域連絡会議の主催による合同パトロールが行われ、26名が参加し二ツ森コース、粕毛川源流部・三蓋沢コースに分かれて登山者に対してマナーパンフレットを配布し、マナーの普及啓発に努めました。ゴミの投棄や盗掘等の違法行為はありませんでした。

9月26日(月)、粕毛川と下沢の合流部付近で放置されていたブルーシートに包まれた野宮道具等について、巡視員や地域の方々の御協力を頂き、往復8時間の道のりでしたが無事回収することが出来ました。

10月5日(水)に、地域連絡会議主催で二ツ森登山道及び山頂部の笹刈払いを、環境省、秋田県、八峰町、白神山地関係カイド団体、東北森林管理局の関係者19名により実施しました。利用者からは、「眺望が良くなり広大なブナ林が見渡せるようになった。とても歩きやすい。」等の意見があり、今後関係者と連携して笹刈払いを続けて行く予定です。

○白神山地世界遺産地域巡視員会議

6月5日(日)に、平成28年度第1回白神山地世界遺産地域巡視員会議が八峰町文化交流センターで開催され、巡視員、関係機関の総勢30名が参加し、今年度の事業計画等の説明をしました。また、環境省からは二ホンジカの日撃情報と異識別調査への協力依頼があり、センサーカメラの取り組みと併せ二ホンジカ対策を強化していくことを報告しました。巡視員の意見交換会では、巡視活動中の安全対策や入山者と接する際の留意点等について活発に意見が出されノウハウの共有を図りました。

12月17日(日)に、第2回目の巡視員会議が藤里町総合開発センターで開催され、巡視員、関係機関の総勢38名が参加し、今年度の事業実績の報告の他、ナラ枯れ被害や松くい虫被害、日撃情報が増加している二ホンジカの確認情報を共有しました。巡視員からは、巡視をする際の安全管理についての意見が出されました。



第2回巡視員会議

○二ホンジカ対策

白神山地世界遺産地域周辺における二ホンジカ対策として、環境省と連携し99台(昨年度79台)の監視カメラを設置しました。その内、当センターは5

月16日(月)から秋田側に26台(昨年度26台)設置し、定期的にテータの回収等を行いながら降雪前の11月末までに10頭の二ホンシカを撮影しました。

また、10月7日(金)から小型囲いわな1台を二ツ井町に設置し、秋田側の白神山地周辺地域初となる捕獲に向けた対策に乗り出しました。

共に設置初日には多くの報道機関から取材があり、新聞各社やテレビの報道がある等、関心の高さが伺えました。

また、二ホンシカの被害は確認されていないものの目撃情報は年々多くなっており、将来に向けて今後も二ホンシカ対策に「層取り組んで参ります」。

○白神山地世界遺産地域周辺の自然観察会

自然観察会は公募により選定された一般社団法人秋田白神コミュニケーションセンターとの共催で「白神森林講座」として3回開催しました。



二ツ森から世界遺産地域を望む

は若木山、森吉山を眺望し、すばらしい景色に参加者からは歓声があがりました。

午後からは留山に向かい、藩政時代から田畑の水源を守るために大切に保全されたフナ林を散策し、森林の水源涵養の役割について理解を深めました。

第2回目は7月9日(土)に「深緑の眺望」と題して藤里駒ヶ岳のフナ林を観察しながら登山しました。山頂まで行く予定でしたが、前日からの雨の影響から登山道も滑りやすかったためフナ平までの散策となりましたが、霧に包まれたフナ林がとても幻想的で普段見ることの出来ない風景に参加者からは感動していました。その後、水の日に関連イベントと

して素波里ダム周辺を散策し、フナ林がもたらす水の恵みを感じることが出来ました。

第3回目は「行くと題して、森林鉄道の遺構が残る藤里町の峨嵋渓谷を、かつて秋田杉の天然林で繁栄した歴史を感じながら深流を散策しました。また、午後からは横倉の棚田や菅江真澄も訪れた水無沼を自然観察しながら散策しました。

何れも秋田市からの参加者が多数を占めました。これからも、より多くの方々に白神山地の魅力伝えることが出来ればと思っています。



森林鉄道の遺構が残る峨嵋渓谷にて

○森林環境教育

7月13日(水)、藤里町立藤里中学校の生徒が職場体験に訪れました。

所長から当センターの業務概要を説明した後、能代市二ツ井町にある七座山で測樹体験や森林パトリール、二ホンシカ対策で設置しているセンサーカメラの操作方法を体験しました。生徒からは、「将来林野庁職員になれるように勉強を頑張ります」と大変心強い抱負が述べられました。

9月6日(火)、大館市早口小学校5年生児童18名が森林環境教育の一環として森林環境の学習を行いました。

これは、世界遺産白神山地の自然に触れ、森林の素晴らしさを守る大切さを学習することを目指すもの



研修棟での早口小学校森林教室

です。当センターの研修棟で白神山地世界遺産の概要やフナが水を蓄える働き、二ホンシカ対策について学習した後、木の輪切りやトングリ等を使い木工品の制作を行いました。午後からは、水無沼で棚田や遊水池の見学、自然観察会を行い、フナの観察や白神山地がもたらす水の恵みを体験しました。

10月3日(月)、6日(木)に藤里幼稚園年長児16名が、フナを見たり触れたりしながら、自然を感じ大切にしようとする心を育てることを目的として、ぶなの森探検を実施しました。

3日は事前学習として白神世界遺産センターの展示施設を利用し、ぶなの森の様子や動物、昆虫等について学習しました。また、触つてはいけないツタウルシや危険なクマの話等、山での安全教育も行い準備を整えました。

6日の探検当日は曇りの天気で少し肌寒さもありましたが、園児たちは元気よく岳岳自然観察教育林内を探検しました。黄色く色づき始めたフナ林で「40年フナ」の大きさに驚いたり、フナの実や堅果に触ったり、キハダの皮をなめて「苦い!」と顔をゆがめたり五感をフルに使った学習は園児たちを少し成長させたようでした。園児たちが大人になっても、自然を大切にする心を忘れないでほしいと願っています。



ぶなの森探検

○地域との連携

6月24日(金)、秋田県二ツ井高校1年生37名が、白神プロジェクト活動の一環としてスギとフナの植樹体験と白神山地の自然観察会を実施しました。NPO法人あきた白神の森倶楽部が県の補助事業を活用し実施しているもので、秋田県山本地域振興局、当センターが参加し植樹指導や藤里駒ヶ岳登山道周辺の植込でフナ林散策を行いました。生徒さんからは、この取組みを通じて林業への理解と木を植える大切さや自然を守る大切さを体験できたと感想がありました。

今年度の主な活動を紹介しましたが、今後も巡視活動などにより白神山地世界遺産地域の保全管理に努めるほか、白神山地の豊かな自然を将来を担う多くの子供たちに引き継いでもらえるよう、地域の方々と共に取組んで参ります。

10月29日(土)、30日(日)に藤里町民祭が藤里町民体育館で開催され、多くの町民で賑わいました。当センターでは、白神山地の写真パネルや二ホンシカ監視カメラで撮影された動物写真を展示するなど多くの町民の関心を集めました。

また、木工教室では、葉っぱを利用したしおり作りや、木の実等を利用した工作など、児童から年配の方まで幅広い年代層に楽しんで頂くことが出来ました。

11月13日(日)、「あきた白神まつり」が藤里町商工会、秋田県主催、東北地方環境事務所、東北森林管理局他の協力で白神山地世界遺産センター「藤里館」駐車場で開催されました。当センターは岳岳自然観察教育林のトレッキングをサポートし、秋田白神ガイド協会の案内でフナ林を散策しました。参加者は、晩秋の



盛況だった木工教室



銀細工の森をトレッキング

銀細工のようなフナ林の景色に感動の声をあげていました。

参加者は、晩秋の

銀細工のようなフナ林の景色に感動の声をあげていました。

参加者は、晩秋の